

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第102回 ●

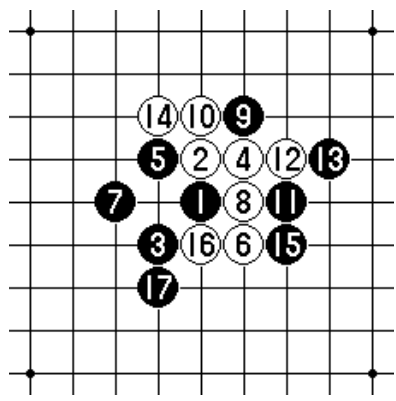
■ 新型コロナウイルス

今回の話題は何と言ってもこれだろう。2月頃からだんだん世間を賑わせてきたが、3月に入ると急速に拡大した。会社もちょうど在宅勤務の体制ができてきたので、在宅に一気にシフトした。3月は滋賀県の単身赴任宅、4月は東京の自宅での仕事になっていったのだが、特に4月はわずかに2日しか会社には行かない状態となった。ここまで一気に在宅勤務になると連珠の時間が増えるかと思いきや、意外に体の疲れがひどくのしかかる。普段大きな画面で仕事をしているが、自宅の不便な環境で小さい画面を見ていると案外疲れをかける。筋トレをしては

いたが、やはりストレス解消までには至らない。人間は肉体と精神がバランスよく鍛えないと生きていけないものだと痛感することになった。

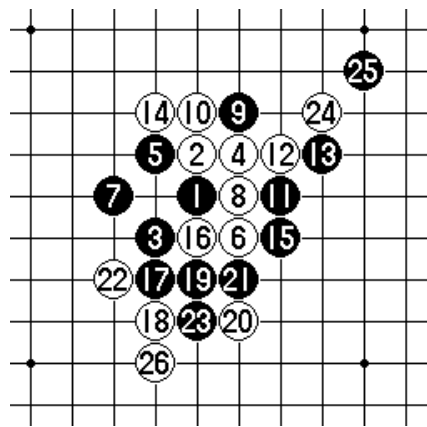
とは言え全く連珠の時間が取れない訳ではない。本来なら研究をしたいところだが、3月は(書面)理事会と内閣府への報告、4月は理事会・総会の準備と内閣府への報告準備で忙しくなる。東京から滋賀県に1日だけ帰って連珠社の印を押し、書類を提出するといふ際、書類が何となく乗りにくい感じができた。ツイッタ―上ではネットの連珠大会などが行われていたが、横目で眺めるだけであった。GWには研究と詰連珠の制作を進めたいと思っている。そんな中でもツイッター上で一手ずつ手をつないでいく「数珠つなぎ連珠」が開催されていた。突然私も指名されたので、一手だけ

打ち次の人を指名しておいた。その棋譜を少しご紹介しよう。

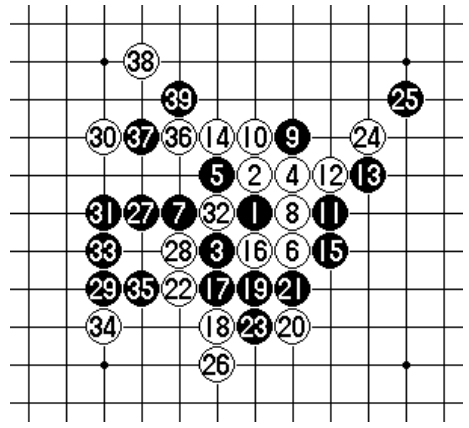


丘月から始まったが、黒17で私に回ってきた。三を止めるだけなので二者択一で迷うことがない。もう少し複雑な局面で回してほしいのだが、とにかく楽しむのが目的なので問題ない。もちろん回ってきた人は棋力に差があるのだが、悩みながら次の人につないでくれるのがほほえましい。連珠は一手で負けてしまうので責任重大に思えるが、待ったを認めてもらえば少しは気も楽になるだろう。

折角なのでその後の展開もご紹介しておこう。

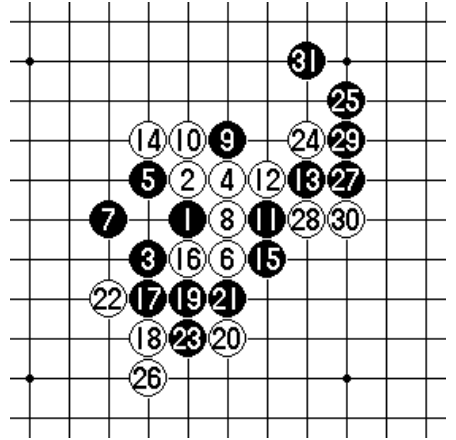


黒19から黒が攻勢に立ち、左右で攻め立ててほぼ黒勝ちまで行ったのだが、最後は勝てずに満局となった。結果は平和なものとなり、局面的にも面白かった。こういうのを見ると実戦家の血が騒ぐのが常である。黒27からいかにも勝ちがありそうなので早速調べてみることにした。最初見たときには左辺に飛び出せば何とかなるのではないかと思っていた。それが次の図



だが、手筋の黒29を打つても白30に止められると案外難しい。黒31、33と打つて白36、38の四ノビが厄介だ。実戦的には勝てそうなのだが、これはダメだろう。その他いろいろ攻め筋があるのだがなかなかしつくり来ない。こういうのはパソコンで調べるのに限る。かけてみると想定外の所で勝ちがあった。

数珠つなぎ連珠でもここに手を付けていたが、左辺の攻防で白に余計な眠三ができており、それが邪魔して勝てなくなっていた。どんな局にも学ぶべきところがある。あとは自主研究を少ししたのだが、以前にも書いた白4を斜め左上に打つ手がいろいろな珠型で打てるのか継続して調べてみた。

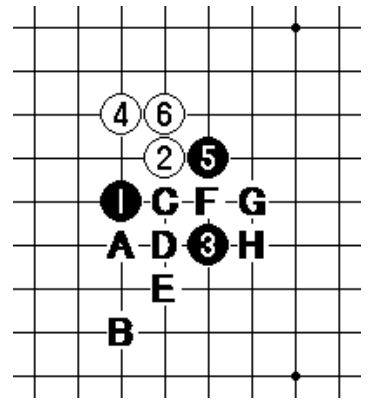


黒5はA〜Hまで少なくとも八題は打てそうだし、かしながら、黒5は白6と組まれて峡月溪月の必敗形に戻る。

二題打ち時代はこんな白4など夢想だにしなかったが、ソーソロフになったらこんな手まで調べなくてはならなくなった。それがまた楽しみなのだが。

黒5で3の一路下も白勝になりそうで、その他黒5を6に打ち溪月峡月に戻すのもあるが、4に近づくのは多分あまりよくないだろう。

黒5をBが白にとって一



番チャンスがあると思われるのでいろいろ調べたのだが、黒が有利な変化しか出てこない。ここでもまたパソコンに聞いてみることに。すると白6という手が示された。なるほど、黒7になりそうだった。しかしこれも、黒13から15に止めておいて悪くない。例えば黒21までなら黒がかなり良いだろう。

今後新型コロナウイルスの影響は続くだろう。早く収束し、少なくともA級まで影響しないことを願っている。

